

校長室から ひがしなら通心

(H29年度)

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 8

平成29年5月11日(木)発行

ある新聞

記事より

読売新聞5/7朝刊より

壹

乗斥

厩門

14版

社会

30

注意しても聞かない時にたたくのは、しつけです。という兵庫姫路市の30歳代女性、2人の小学生のお母さん。お母親だって感情的になることがあります。毎日、子

日曜便では毎週、取り上げるテーマに、多くのご感想をいただきます。反論を頂戴することも、しばしばです。先月、私が取り上げた「しつけと虐待の境目は？」がそのうちでした。大阪府内の衣料品店内で、走り回る女兒を母親らしき人が捕まえ、頬をはたいた。その目撃をした投稿主さんが「これって虐待？」との疑問を当欄に投げかけ、私は「身体的虐待といえるかどうか、そういう目撃をしたら、すぐ通報を」と書きました。これに対し、お母さま方から「虐待ではなく、しつけは？」との声が届きました。



しつけ 親の言葉で

「子供への暴力を見たら、すぐ通報を」との主張は、子供と日々接するお母さんには、息苦しさを感じさせたのかなあと感じました。「暴力」ではなく、「お尻ペンペン」「頭ごっくん」と書く、日常の「コマ」になる気もします。ただ仕事柄、虐待現場にかかわる方々の話を聞く機会も多い身としては、ある専門家

供と向き合おうと必死なんです。頬をたたくくらいで虐待と言われたら、子育てはできません。との意見です。和歌山県の3〜9歳の3児のお母さん(36)からは「うちは平手打ちはしないけど、頭をはたくことはありません。決してたたきたいのではなく、何度叱っても聞かない場合、エスカレートすることがあるのです。」「たたいているのを見たら通報」なんて安直に考えないで。とのメールです。2人の子供の育児をもっぱら引き受けてくれている私の妻(35)にも聞くと、ご紹介した2人のお母さんと近い意見で、「私は声で叱るようになってるけど、子供は言うことを聞かないことも多いから、お尻ペンペンくらいは理解できる」とのことでした。

「再反論」には、また多くの親御さんから「そうはいっても」の声が返ってくるかもしれません。ただそんなキャッチボールを今後も続けながら、私自身、子供への接し方やしつけ方を考えていきたいと思えます。(清家俊生)

にご登場願ひ、改めて聞ひかきたいと思ひます。神戸学院大で、虐待問題などを研究してきた神原文子教授(67)は、こう指摘です。「子供のお尻や頭をたたく行為をしつけと考える親は多いのですが、その行為の前に一歩立ち止まり、子供を自分の思い通りにさせたいという支配の意識がないか、親は自問してほしい。高校生を対象にした調査では、親から体罰を受けた子供は自己肯定感が下がり、自信が持てなくなる例が多いんです。親は体罰でなく、言葉でしつけ

お便りは、〒530-8551(住所不要)読売新聞大阪本社社会部「日曜便」係、ファクスは06-6361-0733、メールはnichiyobin@yomiuri.comです。ウェブサイトでも読むことができます。「日曜便」で検索を。

大人の責任 ~本当のしつけ~

子どもは親(大人)の後ろ姿を見て育つと言われます。そんな折、ある冊子で「つもりのしつけ」という興味深い一文を読みました。調査の結果から、保護者の多くは、わが子を十分にしつけたつもりになっているのです。その調査では、保護者と教師の8割以上が、一般的な家庭のしつけについて不十分だと思っているにもかかわらず、7割の保護者は、わが子のしつけはうまく行われていると捉えているというのです。つまり、多くの保護者は、他の家庭のしつけは不十分だけれど、わが家では十分にしつけているつもり、だということです。たとえば、私たちは、子どもに「あいさつをしなさい」と毎日のように言っています。言っているから十分にしつけているつもりになっています。けれども、実際に子どもがあいさつできないとしたら、本当にしつけていることにはなりません。私たち大人は、子どもをしつけたつもりではなく、本当にしつけるために、しつけの結果を確認する必要があります。

「江戸しぐさ」の中に、子育てに関する興味深い言葉があります。(江戸しぐさとは、江戸の人々が行っていたとされる礼儀作法や粋なしぐさのこと)

『三つ心、六つ躰(しつけ)、九つ言葉、十二文(ふみ)、十五理(ことわり)で未決まる』

この意味は、3歳までに心の大切さを理解させ、6歳までに公私の区別をしつける。9歳までに相手に失礼にならないようにあいさつを覚え、12歳できちんと文章を書けるようにする。そして15歳で自然の摂理を理解させ、大人の仲間入りをさせるというものです。まさに、このことは現代の脳生理学にもかなった子育てと言われている。(裏へ続く)

家庭・地域・学校がそれぞれの場で、子どもの姿を見ながら、じっくりと「本当のしつけ」ができるように取り組みたいですね。

気になる「江戸しぐさ」をいくつか紹介します。

- ・傘かしげ：雨の日に互いの傘を外側に向け、ぬれないようにすれ違うこと。
- ・肩引き：道を歩いて、人とすれ違うとき左肩を路肩に寄せて歩くこと。
- ・時泥棒：断りなく相手を訪問し、または約束の時間に遅れるなどで相手の時間を奪うのは重い罪（十両の罪）にあたる。
- ・うかつあやまり：たとえば相手に自分の足が踏まれたときに、「すみません。こちらがうかつでした」と自分が謝ることで、その場の雰囲気をよく保つこと。
- ・七三の道：道の真ん中を歩くのではなく、自分が歩くのは道の3割にして、残りの7割は緊急時などに備え、他の人のためにあけておくこと。